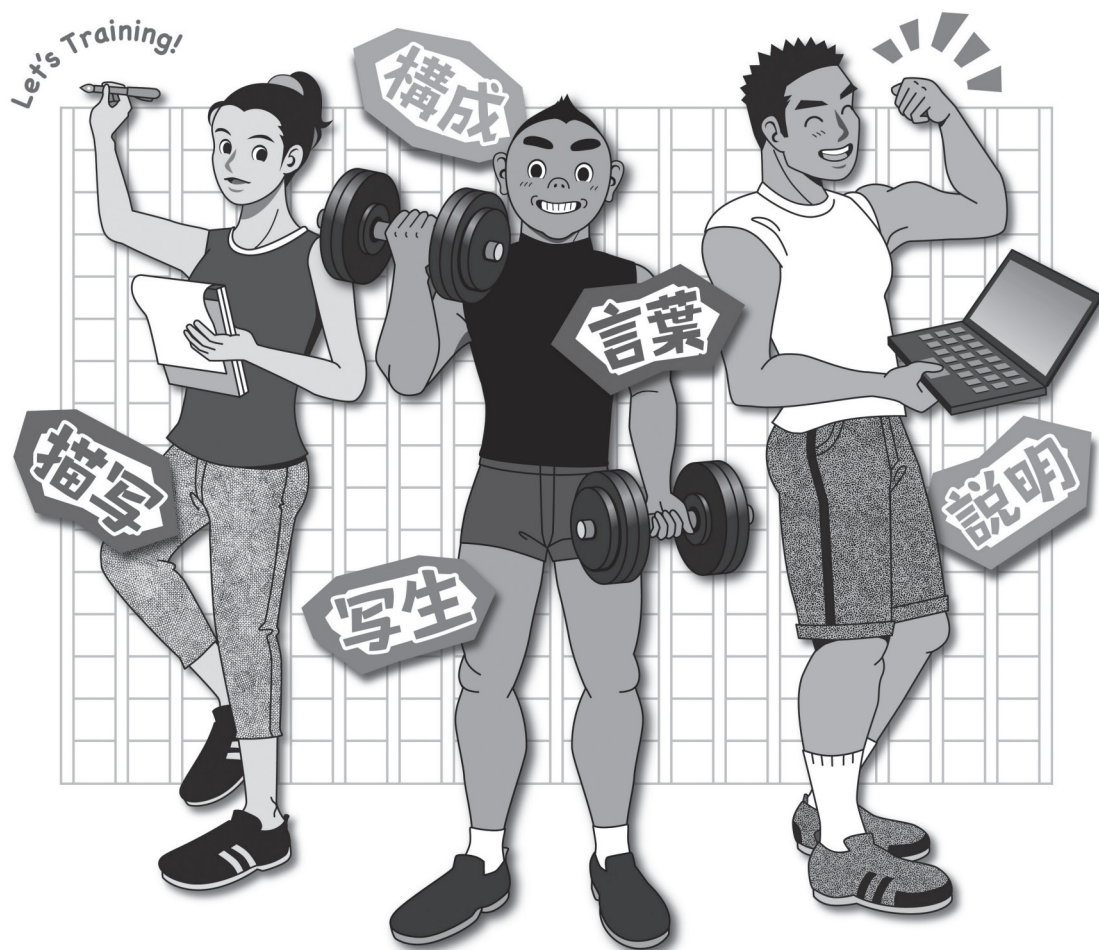


創作トレーニング実習

1週間で文章力を上げる



スポーツには、野球であれば打撃練習、守備練習といった個別のスキルを上げるトレーニングがあります。

筋力トレーニングというのもあります。

では、文章や小説には、そのような個別の力を養う

創作トレーニングはないのでしょうか。

もちろん、あります。そして、文章家を目指す人たちは、

日々そうしたトレーニングをやっているのです。

さあ、あなたも、明日からと言わず、今から！

小説を読むこと、朗読すること

要約すればA41枚

小説はどのように作っていくものな
のですか？

森をどうするか、木をどうするかの一

つがあります。森は構想です。長編小説の場合、建物の基礎となる部分はしっかりしていないといけないですね。その基礎は何かというと、ひとつは大きな「起承転結」という骨格です。この構造さえ



できていれば全体をどういうスタイルで攻めるのか、語り手を誰にするか、どの人称を使うのかも決まってくる。設計図もあったほうがいい。企画書みたいなものです。

設計図はどの程度、作り込む？

どんな有名な作品でも要約すればA41枚ですよ。大事なことは、その骨格が最低1年間は飽きないものであるかどうかです。長編は途中でつまずいたり筆が止まったりする時間を含め、毎日書いたとしても最低1年のはかかるので、いつ見ても新鮮に思えるようなものを作る。欲をいうならいくつかのパターンを作成しておく。そうすればまだ使っていない手持ちのものをサブストーリーとして物語の細部に埋めていくことができる。そもそも長編というのは何本かの小説が複合的に組み合わせられているものなんです。

これに対して、木の構想は一段ごとの文章。一行一行にそれなりの魅力とか驚きがないと達成感も得られないし、行の中に豊かな情報量を盛り込めなければ読者を牽引していくのは難しい。

朗読という練習方法

文章のリズムを身につけるにはどうしたらいいですか。

歌ったらいんじゃないですか。カラオケは勉強になります。この歌詞だから

こういうメロディーになるのかというのが分かる。実は文章には潜在的にメロディーがついているんですよ。それは黙読するから分からないのであって、実際に声に出して読んでみると五線譜に書けるようなメロディーがあるんです。

読書は黙読することが多いと思いますが、朗読は文章上達にとっても効果的なんです。たとえば、「てにをは」の間違いがあった場合、朗読したら聞いている人は気づきますよね。声に出してみている人は気づけば、文章のリズムが悪いことも分かります。語呂にしても力行が連続すると突っかかるけれど、そこにラ行が入るとすると発音できるということもありますよね。朗読したときに引っかかりなく読め、聞いた人が字面を追わなくても耳に入るとい文章が理想なんです。

一人称と三人称では、どちらが文章の練習になりますか。

小説の文章の修練をするなら、三人称で書いたほうが力がつきます。

描写力をつけるにはどうすればいいですか。

描写は、映画で言えばカメラのフレーミングですね。あるいは構図といってもいいかも知れませんが、どういうアングルでフレーミングをするか。風景とか人物の切り取り方が描写に表れるわけですよ。オーソドックスなフレーミングもあるし、わりと奇をてらったタイプのもの

もある。絵にはモンタージュというのがある。連想をさせる手法として使いますけれど、それが比喩です。ある情景を一瞬にして理解させるのがメタファーマジックで、巧みなたとえをしてくれたなら、読むほうは瞬時に理解できます。

プロの文体をリライトする

——小説の練習をするうえでお手本になる作品はありますか。

ケースバイケースですね。たとえば、ある主人公がA地点からB地点に向かっていくときの描写、これをどうするかというときに、夏目漱石の写生文をひとつの手法として模倣する手もあります。寄り道だらけですが、漱石の場合、それが魅力なんです。

人はしばしば自分の愛するものや、はまっているものについては雄弁になってその魅力を徹底的に言葉でなぞっていく。偏愛ぶりというのはそれぞれのジャンルによってもだいぶ違いますけど、たとえば、谷崎潤一郎の文体に対して抱く執着心というか、偏愛ぶりを描いた作品は参考になるでしょうね。

しかし、これが探偵小説であれば、寄る道するわけにはいかない。

——現代作家はどうでしょう？

若い女性が書いたものでありながら、年配の人にも説得力をもって迫ってくる

——ということは、文章がチャームिंगということでしょう。綿矢りさの作品がそうですね。古井由吉の文章は見えないものにまで目が届いています。これはまあ、日本語の散文としてはひとつの到達点と見ていい。

——それを真似すればいい？

古井さんの文章は、とても真似のできるようなものではありません。古井さんの文章をもう少し分かりやすくリライトしてみよう。あるいは漱石の写生文をもうちょっと口語調にして、自分の得意とするような語り口してみようのもひとつの方法だと思います。

——書いたものを家族や友人などに読ん

でもらうのはどうですか。

——作品の感想を第三者に聞いたり、矛盾点などを指摘してもらったりすることは文章上達にはとてもプラスになります。といっても家族や友人は面倒くさがってなかなか読んでくれませんけどね(笑)。

でも、いまはツールがあります。無料の自分のホームページを立ち上げてそこで作品を発表するのもひとつの方法でしょう。携帯小説やフェイスブックもあります。私は大学で創作法を教えています。学生はブログ、掲示板への書き込み、あるいはツイッターなどで日常的に情報発信をしながら、文章のトレーニングを力ジュアルにやっています。

小説の教科書は小説

——小説や文章の究極の上達法は？

学生には、今の手法に早く飽きる、次の手法を打ち出せと言っています。サッカーだって似たようなプレーを続けていけば、相手に攻撃パターンを読まれてしまいます。小説も同じ。バリエーションを増やさないんです。攻めが単調になったらもうダメなんです。そのためには多くの作品を読んで、いろいろな技法を盗むしかありません。

——毎日書くことも上達法ですか。

——作品を作っていく過程はアスリートと似ているところがあるんですね。バレーダンサーは練習を1日休むと取り戻すのに2日かかるみたいなことを言うじゃないですか。野球選手だって怪我をして試合から離脱すると勘が鈍る。小説にもそれと近いところがありますね。

——小説を書くには人生経験は必要？

邪魔にはなりませんよ。ただ、何をもって人生経験というのか。たとえば、同じルーチンを繰り返して、脳の一部しか使わない生活をしている人の人生経験が豊富かといえば、そうじゃない。その世界で経験を積み、それなりのスキルをもった専門家になりますが、人生経験というのは多様な頭の使い方、修羅場のくぐり方で身に着くもので、質と多様性によりですね。



島田雅彦(しまだ・まさひこ) 1961年東京都生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒業。小説家、2010年下半期より芥川賞選考委員。法政大学国際文化学部教授。83年『優しいサヨクのための嬉遊曲』で注目を集める。84年『夢遊王国のための音楽』で野間文芸新人賞、92年『彼岸先生』で泉鏡花文学賞、06年『退屈姉妹』で伊藤整文学賞を受賞。ほか、『天国が降っている』『僕は模造人間』『小説作法ABC』など著書多数。

実習1日目

写経トレーニング

～作家の文章を体感しよう～

1日10分、継続は力なり

創作トレーニングの第1日のメニューは、既に刊行されている本の全文書き写しです。名づけて写経トレ。

このトレーニングでは、プロの作家が書いた作品をまるまる丸写しします。改行の位置、句読点の打ち方、記号類もそっくりそのまま書き写します。自分流にアレンジするのは厳禁です。

書き写す作品は、「こうなりたい」「テクニクを盗みたい」と思う作家の文章であれば、どれでもかまいません。

時間は、1日10分でOKです。実際の筋トレも3日空けると効果がなくなると言いますが、文章のトレーニングも同じで、いっぺんに長時間やって明日からは一切やらないのはダメで、毎日少しずつでも長くやるほうが地力になります。気をつけたいのは、写すことが目的になってしまうこと。そうではなく、なぜ

そう書かれたのかを考え、文章を味わいながら書き写していただく。

写経トレの効能

作家の文章の書き写しをやつてすぐに文章を書くと、それが漱石であればあなたの文章も漱石っぽくなり、芥川であれば芥川っぽくなります。これは繰り返し特定の歌手の曲を聞いたあとにその歌を歌うと、なんとなくその歌手の歌い方に似てしまうのと同じです。つまり、文章の癖、文体が伝染するわけです。

ただ、目に見えて似るのは一時的なことで、伝染した癖はすぐになくなり、その人の癖として地層のように溜まります。そこには漱石風もあれば芥川風もあり、また村上春樹風もあれば石田衣良風もあるでしょう。つまり、その人が影響を受けた作家の文章の特徴が渾然一体となっているのです。これが文体の正体です。

このように全文書き写しには作家の文体を盗むという効果がありますが、もうひとつ、重要な効用があります。それは文間のとり方が分かることです。

文間というのは、連続する文と文の関係の度合いです。

学生はこの絶壁によじのぼった。ひるすぎのことであつたが、初秋の日ざしはまだ絶壁の頂上に明るく残っていた。学

生が、絶壁のなかばに到達したとき、足だまりにしていた頭ほどの石ころがもろくも崩れた。崖から剥ぎ取られたようにすつと落ちた。途中で絶壁の老樹の枝にひっかかった。枝が折れた。すさまじい音をたてて淵へたたきこまれた。滝の附近に居合せた四五人がそれを目撃した。しかし、淵のそばの茶店にいる十五になる女の子が一番はつきりとそれを見た。

いちど、滝壺ふかく沈められて、それから、すらつと上半身が水面から躍りあがった。眼をつぶつて口を小さくあけていた。青色のシャツのところが破れて、採集かばんはまだ肩にかかっていた。

それきりまたぐつと水底へ引きずりこまれたのである。

(太宰治「魚服記」)

文間の溝が深すぎると、意味は通じません。たとえば、『品川に新幹線が止まるようになった。明日は雨だそうだ。』は、前後する二つの文章の関係が遠すぎてわけが分かりませんね。

しかし、文間が浅ければ(文と文の関係が近ければ)いいわけではなく、あまりに文間が浅いと読んでいて息が詰まる気にさせられます。

太宰の文章は文間の溝が深いほうですが、それが非常にいい塩梅で、読む人は

書く環境づくり

トレーニングルームというのがあるのと同様に、文章を書くためには書斎は必須です。部屋であれば一番いいですが、そうでない場合は集中力をそぐ要素を遮断できる環境でありたいです。

悔れないのが椅子と照明で、ここにはある程度の投資は必要です。少なくとも、書くことが苦痛になるような環境は好ましくありません。

トレーニングを継続するためには、机に向かうことが心地よい環境づくりは欠かせません。そして、一日に一時間は机に向かつて書くか読むかする。その習慣をつけましょう。

文と文の関係を考えますから、右脳が刺激されて気持ちよくなると言われています。文と文の関係が遠いだけに、話がさくさく進む快感もあります。この文間のとり方を理屈で教えるのは困難です。それより、書き写してから何度も読み、感覚として覚えたほうが早い。手書きでやればなおいいです。

実習課題1

川端康成『掌の小説』(新潮文庫)を全文手書きで書き写してください(毎日10分ペースで)。

◀ 実習2日目 ▶

言葉トレーニング

～表現の幅を広げよう～

五つの言い換え練習

ここではよりの確な表現、言い換えるトレーニングをします。

◆平易な言葉に換える

漢語は重厚な感じはしますが、具体的なイメージは乏しかったりします。

たとえば、「上梓」と言われても動作や状態は目に浮かびにくいものですが、「本を出す」と言えば瞬時に分かります。「疼痛」ではピンと来ませんが、「ずきずきする」と書けば分かります。

このように分かりにくい言葉を平易な言いまわしに翻訳していきます。

▼実習課題2

以下の言葉をより平易な言葉に換えてください。

執筆／薫陶／賢明／面罵／雑踏

◆ルビトレーニング

ルビ（ふりがな）を使うと、もう一つのイメージを乗せることができます。

もちろん、正式な読みでなくともかまいません。歌詞ではよく見る「あの娘」や「瞬間」といった当て字と違ってください。これを飛躍させると、「民主党」と書いて「ばらばら」と読ませると言った芸当もできます。

ただし、トレーニングとしてはいろいろ試せますが、実作の中で「親友の拳銃で殺すほうが得策」なんてやっているところなのでやめましょう。

▼実習課題3

以下の言葉からイメージを引き出し、ルビをつけてください。

朝焼け／四月／転勤／夫婦／小説

◆イメージ抽出トレーニング

ひとつの物や状況から、思いつく言葉を引き出していくトレーニングです。

古くからある物や言葉には、それなりのイメージがついていますから、それを言語化していくわけですね。

▼実習課題4

以下の言葉から連想される名詞と形容詞を各五個、考えてください。

ブーケ／校庭／朝の駅／冬の海

◆比喩トレーニング

うまい比喩ができると、意味やイメージが一瞬で伝わったりします。その意味では比喩は大きな武器になりますから、新しいものをどんどん作りましょう。

注意したいのは「芋を洗うような混雑」といった常套句で済ませてしまうこと。それからこれとは逆に、斬新だけど伝わらない比喩になってしまうこと。

とはいえ、練習段階ではあまり制約を設けず、この世に一つしかない、しかし適切な比喩を創作してみましょう。

▼実習課題5

以下の言葉に、誰も書いたことがないような比喩を加えてください。

激流／かんかん照り／刺激臭

◆象徴トレーニング

感情や状態などは、観念的な言葉では通じにくいことがあります。そこで、これらを象徴する小道具を探します。

たとえば、「新婚」では漠としています。「二つ並んだ歯ブラシ」と書けば情景が浮かんできますね。

▼実習課題6

以下の言葉を象徴する小道具を探してみよう。

平社員／貧しかった／わが世の春

俳句トレーニング

俳句は文章表現のトレーニングにもなります。作句の習慣のない人は俳句日記をつけましょう。

では『添削例に学ぶ俳句上達法』（鷹羽狩行・片山由美子）から、俳句が文章表現の訓練になる例を引用してみます。あとの句が添削例です。

◆言葉の適切さ

「ふつつと煮豆ふくめて夜長かな」
「ふつつつ」だと沸騰に通じて、湧き上がっているかのよう。

◆無駄を省く

「ビル建ちて初富士のなき空の青」
「空の青」まで書いてしまうと一句が複雑になり、富士が見えなくなったという趣旨を邪魔します。

◆情景を視覚的に

「四人あて一人聞き役春うらら」
「春炬燵」とし、情景を視覚的にとらえると場面が具体的にになります。

◆焦点がぼける

「殖えるとも減らぬ泡立草の枯れ」
泡立草の繁殖力に焦点を当てて。「枯れ」まで言うとも焦点がボケます。
「殖えることあっても減らぬ泡立草」

◀ 実習3日目 ▶

説明トレーニング

～分かるように説明しよう～

言葉を説明する

言葉の意味は知っていても、いざ説明しろと言われると、意外とできなかつたりします。そこでの確に説明するトレーニングをします。

◆客観的に説明する

たとえば、「書籍」って何？ と言われたら、どのように説明しますか。「文章や絵などを印刷し、ページをめくって見ていくかたちに綴じたもの」とでも言えればいいでしょうか。辞書の編集者になったつもりで、日本語を日本語に変えてみましょう。

▼実習課題7

以下の言葉を辞書的に、客観的に説明してください。
日本／公園／インターネット

◆より掘り下げて考える

前項では辞書的に説明をしましたが、ここでも、もっと掘り下げて考えましょう。何かテーマを与えられたときは、「そもそも〇〇とは何か」と考えるとありますが、そうした思考のトレーニングです。たとえば、「平和」であれば、「当たり前」のことが当たり前にできる状態」といった感じですね。

▼実習課題8

以下の言葉を、誰もが納得できるように説明してください。
友だち／自由／社会

趣旨を説明する

言葉だけでなく、作品についてしっかりと把握するトレーニングをしましょう。

◆要約トレーニング

書いているうちに何がなんだか分からなくなったり、説明がだらだらと長くなつて、「要するに何？」と言われてしまつたりするのは、自作を把握する力、つまり、要約力の不足が原因です。

トレーニング方法ですが、既に読み終えた短編集の一つや二つはお手元にあると思います。それらを片っ端から要約していきましょう。字数制限はありませんが、なるべく簡略に。

要約文が的確かどうか確かめたいなら、それを誰かに読んでもらい、的確に射ているか聞いてみましょう。あるいは、お互いに要約文を書いてみて、読み比べてみるのも一考です。

▼実習課題9

昔話「かちかち山」のストーリーを簡潔に要約し、50字以内でまとめてください。

◆タイトルトレーニング

要約文を最大限つづめたものがタイトルです。キャッチコピー、キャッチフレーズと言ってもいいですし、要約した対象が短い単元なら見出しと言ってもいいですが、いずれにしても趣旨を短い言葉で表したものだということになります。

タイトルづけには、大きく分けて二つのアプローチの方法があります。

一つは内容表示です。たとえば、司馬遼太郎作品で言うと、『関ヶ原』『最後の将軍』『竜馬がゆく』『義経』などは内容表示ですね。タイトルを見ただけで、ある程、内容が分かります。

もう一つは、内容表示にひとひねり加え、それを象徴するものなど別のものに交換したもの。たとえば『峠』『夏草の賦』『歳月』『花神』『坂の上の雲』などがそうです。要約ということに主眼を置いて、トレーニングしてみましょう。

▼実習課題10

芥川龍之介『蜘蛛の糸』を要約し、作品の中心をきゅつととらえた新たなタイトルをつけてください。

◆時間トレーニング

話の中にむやみに回想を入れるのは考へものですが、入れたいとき、入れなくてはならないときもあるでしょう。そのとき、書き方が悪いせいで現在と回想が混ざってしまうことがあります。

《三十年ぶりに同窓会に行った。料亭で開演を待っていたとき、窓の外の公園に鉄棒が見えた。そう言えば担任の井川先生は鉄棒が得意だった。定刻を少し過ぎ、その井川先生が現れた。来年還暦だというのに若々しい。目の前で井川先生が、大車輪を披露する。フィニッシュはいつもの宙返り降り。ピタッと着地して拍手喝采を浴びている。しかし、よく見ると、先生の髪には白いものがだいぶ交じっていた。》

傍点の部分は回想ですが、回想の入りと明けをはっきりさせたいですね。

▼実習課題11

井川先生について書かれた例文を、現在と回想が区別できるように書き換えてください。



◀ 実習4日目 ▶

写生トレーニング

～ありのままに書こう～

ディテールを書く

言葉はひとつの記憶装置と言えます。ただ、DVDやビデオに比べるとあやふやな記憶装置であり、読む人によって、書き手が意図した像とはまったく違うものを頭の中に再生してしまいます。

では、そうならないように、言葉でス

ケッチするように対象を写しとっていくことにしましょう。そのためには、まずは目を働かせて細部を書いていきます。

たとえば、左上のような家があります。この家のことを、これを見たことがない人に言葉だけで伝えてみましょう。

《手のひらの上に家がすっぽり収まっている。玩具の家だ。右側、ちょうど親指の付け根あたりには玄関があり、その横に窓がある。窓辺には花が飾られ、同じような窓は一階と二階に二つずつある。屋根は三角で、屋根のてっぺんの奥には煙突らしきものが二本見える。》

と、まだ途中ですが、このようになるべく目でスケッチするように情景を写しとっていきます。

一度、皆さんも挑戦してみてください。そして、その文章を誰かに読ませ、その文章からイメージされた家を絵に書いてもらいましょう。おそらく写真の家とはだいぶ違うものになるはずです。

それほど、言葉の持つ情報量はほんのわずかで、絵や写真のように寸分違わずに対象を再現することは難しいということが分かると思います。

▼ 実習課題12

上の玩具の家を写生文で書いてください。ただし、比喩は使わないでください。

読み手に推測させる

目の前にあるものを読み手に伝えようとするとき、それが互いに見たことがあるものであったり、名前が分かっているものであったりすると、説明は容易になります。

たとえば、先ほどは「窓辺には花が飾られ」としか書きませんでした。「窓辺には」ではなく、「フラワーデッキには」としたほうが、より窓辺の形状が分かっただけでしょう。

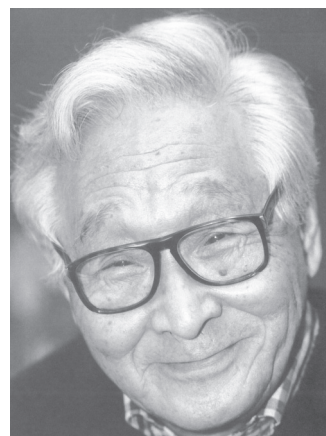
これは比喩にも通じますが、何かを伝えようとして伝えきれない場合、書き手と読み手が共通して認識しているものを挙げ、「○○と呼ばれる○○」とか「○○のような□□」と言えば、□□がどんなものか推測しやすくなります。ただし、○○が見当違いだったり、読み手の知らないものであったりすると、まったく説明の要をなしません。

▼ 実習課題13

右下の写真は安岡章太郎氏です。この写真を見たことがない人に、比喩を使って氏の顔を伝えて下さい。

時間と空間を書く

創作の文章では場面を書くことが多いですが、場面には時間と空間があり、そ



の中には人物もいれば背景もあって、それが時間とともに動いています。

現実の情景は時々刻々と動いています。文章の場合、書き手がそう書かない限り、ストップモーションであるかのような印象があります。

では、ここで課題です。

今あなたは友人と二人で、週末のファミリールーフトランで順番待ちをしています。週末の夕方とあって混雑しています。隣の女性は同僚らしき男性にしきりに夫の愚痴を言っています。店の奥からは先客たちのざわめきとウェイターの声が聞こえています。一時間待って、ようやく席が空きました。そのときはもうすっかり日が落ち、愚痴を言っていた女性たちはもう食事を終えたところでした。

▼ 実習課題14

右記のファミリールーフトランの場面を、時間と空間を意識して書いてください。

◀ 実習5日目 ▶

描写トレーニング

～出来事を再現しよう～

感情を表す言葉を使わない

たとえば、一人旅に行ったときの感想を「寂しかった」と書いてもかまいませんが、それだとどんなふうに寂しかったのかは分かりませんね。同じ「寂しい」にしても、三人いれば三者三様の「寂しさ」があつてしかるべきで、それを「寂しい」だけで済ましてしまうと、三人とも同じになつてしまいます。

それに、「寂しい」というような感情は本人には分かつて、相手には伝えにくいですね。

《一人旅に行った。寂しかった。》

さっぱり分かりません。

そこで、あなたが「寂しい」と感じたのなら、そのときの場面を再現し、読む人に追体験してもらいます。

《一人旅に出たが、極度の人見知りのため、三日三晩、誰ともしやべらなかつた。僕に話しかけてきたのは、場末の自動販

売機ぐらいた。だから東京に着いたときは、ティッシュ配りのお兄さんの呼びかけすら心に染みた。》

というふうに書くと、「なるほど、それは寂しかったでしょうね」と思ってもらいやすくなります。

▼ 実習課題15

「切ない」と思つた出来事を思い出し、その出来事を「切ない」という言葉を使わないで表現してください。

五感を働かせて

読む人は、文章に書かれたことを読むことで、筆者と同じ体験を追体験、疑似体験するわけですが、再現のどこかからなるものは何かと言えば、それは五感です。なかでも、視覚は重要です。

たとえば、「公園」というテーマで何か書くとしましよう。

《近くに自然公園があり、週末は必ず出かける。森の奥にある木のベンチが私の特等席で、早朝そこに座っていると、さわさわと揺れる葉の向こうから野鳥の声が聞こえてくる。昨日はチルチルミチルとメジロが鳴いていた。》

ここで書くときに使っているのは視覚と聴覚で、これを読む人も視覚と聴覚を働かせています。まさに文章は再生装置なわけですね。

では、今度は五感を封印して書いてみましょう。

《公園と言っても国立公園のような自然公園もあれば、街中にある小さな公園もある。こちらは都市公園と言うそうで、そこにある遊具はブランコ、滑り台、ジャングルジムと相場が決まっている。昔はシーソーもあつたが、一人で使えないためか最近ではあまり見ない。》

こちらのほうは五感が封印されたため、非常に理屈っぽいというか、頭の中だけで書いているような印象があります。

このような書き方をする場合もあると思いますが、描写の効果が求められるときに向いた書き方ではありません。

▼ 実習課題16

あなたの目の前に「料理」がありません。読んだ人においしさが伝わるように描写してください。

見てきたように書く

作家は「見てきたようなウソをつく」と言いますが、それは仕方ないですね。

SFやファンタジーでなくとも、作家は見たことも行つたこともない場所を書く必要に迫られます。そこが現実存在する場所であれば資料を見て書く。架空の場所であれば、たぶんこんな感じだろうと想定して書く。つまり、想像力で補

性描写は試金石

描写の中に嗅覚と味覚を入れると表現が豊かになるということはあるかもしれませんが、描写で使うのは大半が視覚で、ついで聴覚。それ以外は意識しない限りはあまり感じないもので、たとえば会議のシーンでその必要もないのにやたらと「匂いがした」「味がした」と書いてあつたら妙ですね。

一方、五感を総動員して書く描写もあります。濡れ場です。この場合、視覚、聴覚はもちろん、触れあえば触覚が働き、相手と接近しているのので匂いも感じるでしょうし、舌を使えば味もします。

もちろん、描写ですから、心理や感覚を直接的に説明しては興ざめされますし、「なるほど」というリアリティーも「あるある」という共感も与えなければいけませんから、かなりの技量が必要です。

では、性描写はどのようにして練習すればいいかというと、実地で訓練する？ それもいいですが、やはり一番いいのは性描写のシーンを読むことです。

そして、そこではどのような言葉が、どのように表現されているか、どの程度書いて、どの程度省

って書くわけです。

その際、本当なのか、ということはある
まり重要ではありません。

たとえば、作品の舞台が架空の滝だ
たとして、その滝の描写があまりにリア
ルだったため、本当にあるんじゃないか
と思つて日本中を探しまわった人に「そ
んな滝、どこにもないじゃないか」と言
われたとしても気にする必要はありませ
ん。大事なものは、本当にありそうだと思
わせること。そう思わせられなければ読
み手を話の舞台に連れていきませんし、
読み手も行った気になれません。

逆を返せば、そんなクレームが来たの
なら、あなたの描写力は相当なものとい
うことですね。

▼実習課題17

アフリカにザンジバルという島があ
ります。その島の様子がありありと
分かるように描写してください。

細部を書く

読み手を話に引き込んでいくにはリア
リティーが必要ですが、では、リアリテ
ィーはどこから来るかというと、それは
細部ですね。

《久しぶりに父に会い、ずいぶん老けた
なと思つた。》

これだと具体性がないですね。

《還暦を過ぎた父と久しぶりに会つた。
目尻には皺が、頬には豆粒大の染みが二
つあつた。以前にはなかったものだ。》

このように、心の中を説明するのでは
なく、目に見える情景やしぐさ、表情を
書くことで読み手に推測させます。

《「すみません、電車が遅れて」
彼は見えたウソをついた。》

と書くよりは、
《「すみません、電車が遅れて」
彼は「なんてね」と舌を出した。》

と書いてみる。そのほうが少なくとも
絵が浮かびますし、読み手も「舌を出し
た」ということはウソなんだな」と想像す
る隙間がありますから、想像力を刺激さ
れて楽しいのです。

▼実習課題18

ある男女二人は陰湿な雰囲気です。
人物の表情、しぐさを書くことで、
彼らの心理を表現してください。

小道具を使う

小道具の使い方には二つあります。一
つは単純に人物の心理や性格、属性を表
しているという場合です。

たとえば、以下の二つを読み比べてみ
ましょう。前者は典型的な説明です。

《栄子は太っていたが、同じ親から生ま
れたのに妹の好美は痩せていた。》

《お揃いのセーターを買ったはずが、栄
子が着ると水玉が楕円になった。》

あるいは、金持ちと分らせるために
光りものを持たせたり、その筋の男と分
からせるためにいかにもという服装にし
たりということもあります（あからさま
にやるとセンスがないですが）。

一方、人物ではなく、作品そのものの
テーマを象徴させた小道具というものも
あります。

この3月で終わった朝の連続テレビ小
説「カーネーション」は、カーネーショ
ンの花言葉「あらゆる試練に耐えた誠
実」から付けられたタイトルですが、こ
れもテーマを象徴する小道具と言ってい
いでしう。

テーマを象徴する小道具は、その存在
感ゆえタイトルになることもままあるの
ですが、こちらのほうの小道具は小さい
とは限らず、たとえば、戦後の繁栄を象
徴させるために東京タワーを扱うのであ
ればこれも象徴的小道具です。また、人
物そのものがテーマを象徴しているとい
う場合は、その人物が象徴的小道具とい
うこととなります。

▼実習課題19

小道具にテーマを象徴させ、掌編を
書いてみましょう。小道具は大きく
ても、モノでなくてもOKです。

略されているかということを調べ
てみましょう。

ただし、男性向けの官能小説は
かなり直接的ですから、あまりお
手本にはなりません。一般の小説
の中に必然的に出てくる性描写を
参考にしてください。

性描写を書くときに注意したい
のは、書いているうちに書き手の
ほうが興奮してしまい、濡れ場が
やたらと長くなってしまふこと
と。描写を書いている間は、物語
の進行は止まっていますから、調
子に乗って書きすぎてしまふ
と、読み手に停滞感を与えてしま
います。

それから表現に品がないのも困
りものです。たとえば、身体の部
位を指す言葉の使い方、直接的
すぎると野暮ですし、隠語のよう
なものもあざといで、これもな
かなかセンスが問われます。

また、言葉は上品でも「出会い
ました。ホテルに行きました」と
いった展開だと（どういう人物な
のかにもよりますが）、「ありえな
いから」と言われてしまいます。

濡れ場には様々な感情が入り乱
れますし、心理的な駆け引きもあ
るでしょう。そういう意味では、
濡れ場がうまい人はなかなかの人
間通と言つことができそうです。

◀ 実習6日目 ▶

構成トレーニング

～話の入れ物を作ろう～

マンガのノベライズ

文章表現を工夫しつつ、同時にストーリーを追いかけるというのも大変な作業ですが、頭に描いた情景を文章化していくことが苦手な人には、マンガを小説化していくという練習方法があります。

設定や展開、セリフなどはそのままでもOKです。絵で表現された情報を、正確に、過不足なく文章に移して（写して）いく感じです。

ただし、マンガは作者視点ですから主人公の姿が見えていますが、人物の目で語った場合は見え方が違いますから注意してください。

▼ 実習課題 20

お手元にあるストーリーマンガを小説にしてみましょう。完成したら元のマンガと比べてみましょう。

名作の骨格を借りる

言葉に文法があるように、ストーリーにも法則があります。

言葉は母親から口うつしで教わり、「僕はジュン」とは言うが、「は僕ジュン」という語順では通じないと理解したり、「髪を触る」は動作にウェイトがあるが「髪に触る」は部位にウェイトがあると感覚的に理解したりします。

ストーリーの文法も同じで、子どもの頃から物語に親しんでいるうちに、「物語はこう始まってこう終わる」と理解したり、「この展開になる前にはそれとは逆の場面が挿入されるのが普通」といったことを感覚的に理解したりします。

このストーリーの文法を学ぶには、日本語の文法を学ぶように頭で理解するという手もありますが（4月号特集「ストーリーメイクの鉄則」参照）、感覚的に理解していくトレーニング方法もあります。それがリメイクという方法です。

リメイクの場合、ストーリーの骨格そのものは変えませんが、設定や人物、テーマなどは大胆に変えてかまいません。

▼ 実習課題 21

昔話「桃太郎」のストーリーはそのままだに、これを小説にしてください。設定や人物名などは換えてOK。

論理的思考と俯瞰的思考

筋は曲がっても脱線してもいいですが、整合性がないというか、必要のない寄り道は困ります。冒頭、おぼあさんが洗濯をしていると桃が流れてきて、しかし、そのエピソードとは関係なく話が進行してしまえば、「あの桃のくだりはなんだったの？」と思われるてしまいますね。

筋の通ったストーリー展開のためのトレーニング方法は数学です。数学では必要な迂回ということはありますが、必要のない迂回はありません。仮定という問いから始まり、最終的な答えを得るまで、筋道が通っています。文章や小説の場合も同じで、意味の

続編を書く

既存の作品の続編、もしくは前段を書くという練習方法です。

前々項のマンガのノベライズの場合は、マンガか小説かという違いはあっても基本的に同じストーリーでした。また、前項のリメイクの場合は、設定や登場人物は変えましたが、ストーリーの骨格は同じでした。

今回の続編の場合は、設定や登場人物はそのままで、ストーリーはまったく新しいものになります。

ない余談は書かないほうがいいですし、最初に問いがあり、最後にそれに答えることでエンディングとなるというところも数学と同じです。

まあ数学でなくてもいいですが、話の結構を作るためには、議論したり思索したりして、論理的に筋道を立てて考える訓練は必要です。

また、構成を考える頭は全体を把握する頭、全体を俯瞰して見る頭です。

このトレーニング方法には、既存の小説やマンガ、映画からあらすじやプロットを書き出してみる「逆プロット（逆箱とも言います）」があります。

これをやると個々のシーンとシーンの関係が分かり、全体の構成を把握する練習になります。

その分、ストーリー作りが苦手な人は難度が高くなりますが、話の舞台や人物設計はできていますので、多少は負担が軽いでしょいか。キャラクターの強い作品の方が、ストーリーを考えやすいです。二次創作のような感じで、好きな作品の続きを書いてみましょう。

▼ 実習課題 22

お好きなマンガや小説の設定やキャラクターを借り、新たに別の掌編を書いてみましょう。

◀ 実習7日目 ▶

仕掛けトレーニング

～話をおもしろくしよう～

伏線を張る

伏線は、のちの展開に備えて前もってほめかしておくことです。

たとえば、童話「シンデレラ」であれば「ガラスの靴を置いてきてしまう」というのが伏線と言えます。この場面なしに王子が現れ、いきなり「あなたがあのときの……」と断定したとしたら唐突ですし、説得力がないですね。

一方、のちの展開というより、設定に説得力を持たせる伏線もあります。

映画「ホーム・アローン」を例にとると、「家族旅行に行ったが、息子を家に置き忘れてしまった」というだけでは、「ありえない」と言われそうです。

しかし、クリスマス休暇中に総勢15名で家族旅行、しかも、寝坊して大わらわそのうえ主人公のケ빈は叱られて屋根裏部屋にいるという状況を作り、息子を置き忘れることにリアリティーを持たせ

ています。こうしたエピソードの積み重ねも伏線と言っているといでしょう。

▼ 実習課題 23

浦島太郎は玉手箱を開けておじいさんになりますが、この伏線となる説明または場面を書いてください。

クレシヨフ効果

映画理論家のレフ・クレシヨフは、ある俳優の無表情のカットを選び、その前に三つのカット（①スプ皿②棺の中の遺体③ソファに横たわる女性）を置きました。すると、俳優の表情は①では空腹そうに、②では悲しそうに、③では欲望を感じているように見えました。

これをクレシヨフ効果と言いますが、小説でも、特にだからどうだとは言わずとも、単に二つのシーンを並べるだけでなくなんらかの意味が生まれたりします。

たとえば、「老人は少女を見つめていた」とだけ書いておき、そのあと、亡くなった孫娘のエピソードを入れればそういう目で見えていると思わせられ、ロリコン趣味について書けばそういう嗜好の人物のような印象を与えられます。

しかし、老人は孫娘のことを切なく思っていることも、少女を性の対象として見ているとも書かれていないため、押しつけがましい感じもなくなります。

また、読み手が勝手に意味を加えて読んでしまうということを逆手にとれば、読み手をあらぬ方向へとミスリードさせる手段にもなってくれます。

▼ 実習課題 24

複数のシーンを並べることで、（こういうことが言いたい）とは書かずに、それを行間で表現してください。

空白補完効果

映画「ペイ・フォワード」は、以下のような流れで始まります。

A・主人公トレバーは、学校の授業で、世界を変える方法として、受けた恩を別の三人に送るという案を提案する。

B・学校の帰り、トレバーは食いつめたホームレスを見かける。

C・家に帰り、母親から電話で、街のホームレスと関わらないよう注意される。

D・電話するトレバーの後ろでは、ホームレスがトレバーのおやつを食べている。

人は途中を省略されると、前後関係から空白を推測してしまうもので、これを空白補完効果と言います。「ペイ・フォワード」でも、Bのシーンでは「このホームレスに恩を送ろう」などとは言っていないですが、映画を見ている人はDのシ

ーンを見た瞬間、そうだと悟ります。加えて、余計な説明が省かれていますから、話がぼんっと飛んでスピード感も出ます。

▼ 実習課題 25

間を省略しても、前後関係からそこで何があったのが分かるように複数のシーンを並べてみましょう。

小説だけが参考書ではない

映画は小説より新しいメディアではありませんが、エンターテインメントということでは小説以上に研究されています。

もちろん、小説に応用できるテクニクもたくさんあります。以前にあったことを瞬間的に思い出すフラッシュバックといった小技もそうですし、意外な、しかし、説得力あるストーリー展開も参考になります。

映像ではできても活字ではやりにくい技もありますのでなんでもかんでもとはいきませんが、映画やシナリオの勉強は小説の勉強にもなります。

▼ 実習課題 26

好きな小説を読み、途中でページを閉じ、次のページでの展開を当ててください。